

目的

猟師が山中に入って糞や足跡からシカの個体数を推定していた従来調査に代わって、ドローンでの個体数調査が可能か検証 併せて遠隔操作での調査が可能か検証

実施内容

1. 赤外線カメラ・可視カメラを搭載したドローンを昼間は3機、夜間は2機同時飛行させ、播磨科学公園都市内約200haの範囲を調査
調査の様子を「Hec-Eye」を用いてリアルタイム配信を実施
2. レベル3飛行にて昼間の調査を実施
3. ドローンから誘引餌を投下し、効果の検証を実施



リアルタイム配信の様子



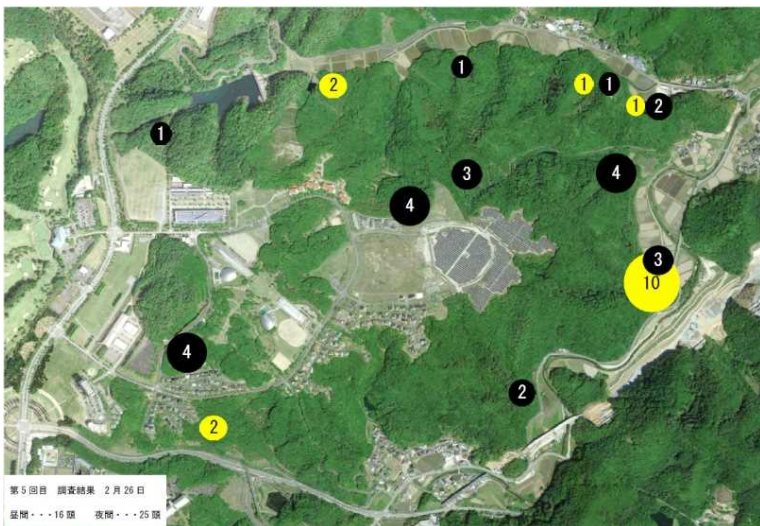
レベル3飛行の様子



誘引餌投下の様子

成果

1. 令和3年1月～3月の期間で昼間と夜間の調査を10回実施
(昼間可視光カメラ3機での調査+夜間赤外線カメラ2機での調査)×10
内1回は「Hec-Eye」を活用してリアルタイム中継を実施
別資料として調査結果報告書と広域図を作成
低高度での調査によって多数のシカを発見
2. 離発着地点から約1.5km離れた場所を調査し、1頭のシカを発見
3. 午前11時に11地点に誘引餌の投下を完了、その後19時に5頭のシカの誘引を確認



発見箇所と頭数を反映した広域図



誘引されたシカ

回数 (日付)	昼間発見頭数	夜間発見頭数
1回目(令和3年1月19日)	4頭	20頭
2回目(令和3年2月2日)	15頭	15頭
3回目(令和3年2月9日)	5頭	10頭
4回目(令和3年2月24日)	8頭	19頭
5回目(令和3年2月26日)	16頭	25頭
6回目(令和3年3月2日)	1頭	5頭
7回目(令和3年3月4日)	4頭	41頭
8回目(令和3年3月8日)	0頭	2頭
9回目(令和3年3月9日)	0頭	38頭
10回目(令和3年3月15日)	0頭	14頭

10回の調査結果